

加古隆

クアルテット

— 組曲「映像の世紀」—

ピアノ(加古隆)とヴァイオリン、ヴィオラ、チェロという4人の奏者により、2010年に結成され、加古隆の楽曲を演奏するグループ。エイベックスクラシックスからデビューアルバム「QUARTET」と、「QUARTET II」「QUARTET III〜組曲 映像の世紀〜」を発表し、コンサートや映画音楽などの録音で活動し、2014年の欧州公演も絶賛された。ステージ上の4人の配置は斬新で、古典的な楽器編成に新しい響きと可能性をもたらし、

目にも耳にも美しい と評されている。



Mariko Aikawa
相川 麻里子
ヴァイオリン

東京藝術大学、パリ国立高等音楽院卒。邦人作曲家の新作演奏や現代音楽、2007年からのliveimageツアーでのイメージ・オーケストラ・コンサートマスターなど、ジャンルにとらわれず幅広く活躍。2022年、第1回グラチア音楽賞特別賞を受賞。



Kaori Minami
南 かおり
ヴィオラ

京都市立堀川高校音楽科(現、京都堀川音楽高等学校)を経て、東京藝術大学卒業。多数アーティストのレコーディングやコンサートツアーのサポート等で活動。



Makito Nishiya
西谷 牧人
チェロ

東京藝術大学、米国インディアナ大学を修了後、東京交響楽団首席チェロ奏者、東京藝術大学非常勤講師を歴任。自作自演弦楽ユニット「清水西谷」、弦楽アンサンブル「石田組」、トリオ・ジャパン各メンバー。2024年より愛知県立芸術大学准教授を務めている。



Takashi KAKO

加古隆 作曲家・ピアニスト

東京藝術大学大学院・パリ国立高等音楽院にて作曲を学び、オリヴィエ・メシアンに師事。パリ在学中に即興ジャズピアニストとしてデビューするという特異な経歴を持つ。ピアノ曲からオーケストラ作品まで幅広く、映画音楽での受賞も多い。NHKスペシャル「映像の世紀」シリーズのテーマ曲「パリは燃えているか」で知られる。演奏する音色の美しさから「ピアノの詩人」とも評されており、最新アルバムは、パリ・デビュー50周年を記念した自選映像音楽集「KAKO DÉBUT 50」。



ABA ホームページ ▶

<https://www.aba-net.com/event/kako-hirosaki/>